

# カオ三景

六本松 箱崎 伊都

▷11◁

前原市にある戸建てで編入試験に合格した住宅のモデルハウス。工学部3年の久保勇太さん(21)が体験談を語ることは無関係のちよっと変わった集まり

に落ちて、後期の九大に合格しました。前期が終わると勉強しなくなりですが、続けるべき。後期は狙い目。試験会場はがらがらでした」とアドバイス。福岡市西区周船寺に自宅がある理学部1年の大林信明さん(19)は近くの私立高校出身。「オープンキャンパスで化

## 地元から入学を目指せ

が開かれた。伊都キャンパス(福岡市西区)への移転で、ぐっと近くなった。地元の九州大学への進学を誘う会。

生を持つ父母らがうなずいた。モデルハウスは市内で不動産業を営む田中誠さん(60)の物件。業界団体の県宅地建物取引業協会福岡西支部の住環境整備委員長を務める田中さんは「業

学に興味がわき、英語のリスニングが嫌いでしたが、とりあえず集中した。誰でも上達したい気持ちがあるはずです」と話し、更に「地元から九大生が増えるのはいいこと」と語った。

系を目指しているが前期試験が終わっても勉強を続けるべきと勧めています」と親の意識は高まったようだ。九大を核とするまちづくりを目指している、前原市の松本嶺男市長も「地元からも」

「九大に入るという信念を持つこと。数学は嫌いでしたが、繰り返し返せば好きになる。多い時は1日10時間勉強しました」。高専出身

リビングルームでくつろいだ雰囲気のは、久保さんはじめ5人が合格体験を話した。同じく工学部3年の甲斐貴之さん(21)は三重県の進学高出身。

参加した前原市の女性(47)は高3と高1の娘を持ち「上の娘は理

と九大生を」と願う人。「受け皿作りが前提になるが、市内にある新興住宅地は30年後は高齢化する。九大に多く入学してもらい、一人でも多く残れば、地域の活性化にもつながる」と言う。

「前期試験の第一志望

「前期試験の第一志望

「前期試験の第一志望

【竹田定倫】



自分の合格体験を話す九大生たち